

らいい通信 ぶちらいふ

lifsea
株式会社リフシア
HP / http://lifsea.co.jp
らいい日記 (スタッフブログ)
green.ap.teacup.com/lifekaigo
10周年特別記念号
2014夏Vol.36



市から防災ラジオ、毛布や食料などの備蓄品が提供され保管しています。

株式会社リフシアは、前身の大勝建設株式会社介護事業本部として介護事業への取組みを始めてから、平成26年8月6日を以て創業10周年を迎えることとなりました。

これは日頃御愛顧頂いておりますお客様ならびにご家族様をはじめ、地域の方々、職員、そして様々な関係先様の温かいご支援の賜物であり、心から厚く御礼申し上げます。

当社介護事業取り組みのきっかけは、社長加藤順一が大勝建設所有地の活用を「是非と

の2年後、新たに創設されたサービスである小規模多機能型居宅介護「らいい松林」を開設。その後も年に一事業所ほどを開設しました。そして、平成22年12月22日には、介護事業が

現在、茅ヶ崎・藤沢において8拠点、従業員数も300名を数える規模となりました。また、今年1月30日には、「食」を通じた地域での生活支援を目指し、リフシアの子会社



今年6月、茅ヶ崎市と防災協定を結びました。「災害時における要介護者等の緊急の受け入れに関する協定書」では、茅ヶ崎市内にあるリフシアの5介護事業所(萩園・松林・柳島・香川・松が丘)が福祉避難所となり、市からの協力要請により在宅の寝たきり高齢者、認知症高齢者を受け入れることになりました。(写真右：茅ヶ崎市理事、保健福祉部長福祉事務所長 夜光広純様、写真左：(株)リフシア社長 加藤順一)

「株式会社リフシアネット」を設立しました。私たちの思いは、創業時より変わらず「地域」にあります。私達のサービスは「住み慣れた地域での安心な暮らし」をサポートするためにあることを第一と考えています。

社名の「リフシア(lifsea)」は「らいい(life)人生」と「シー(sea)海(大きな包容力)」を合わせた名前です。これには「人の暮らしを大きな包容力でやさしく包む」という思いが込められています。

これからもこの思いを胸に、着実に一歩一歩、地域とともに歩んでいきたいと思っています。



「心を添えて共に生きる」

地域社会への貢献
地域での在宅生活支援
人間性尊重

創業10周年を迎えて

株式会社リフシア 常務取締役 小嶋達之

も地域に貢献できる事業としての思いから始まり「デイサービスらいい萩園」を平成16年8月6日に開設しました。そして株式会社リフシアを設立しました。

「自立性を持つて成長できるように」と、大勝建設から分社化して株式会社リフシアを設立しました。

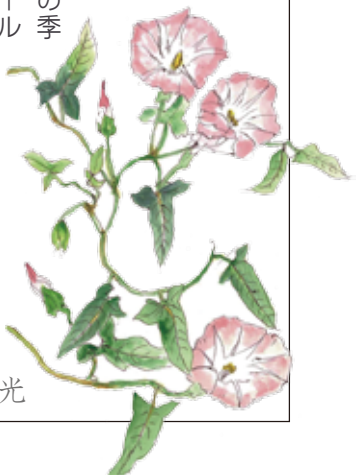


開設当時のらいい萩園(右)らいい松林(左)の皆さん

花だより 5 朝顔

朝顔は夏ではなく秋の季語ですが、朝顔イコール夏というイメージが強いので今号で紹介します。朝顔はヒルガオ科の一年草のつる草で、中国やヒマラヤが原産地といわれ、日本へは平安時代に遣唐使が中国から薬用として持ち帰ったのが最初といわれています。源氏物語の二十帖には朝顔宮というお姫さまが登場します。「朝顔」は巻名になっております。紫式部は清楚で毅然とした女性を朝顔の花になぞらえたのでしょうか。江戸時代になると、鑑賞用に品種改良され、広く栽培されるようになりました。

この時代の俳人・加賀千代女の「朝顔やつるべ取られてもらひ水」という有名な句があります。この情景を歌川国芳が浮世絵に描き、話し家が落語にしました。



光

庶民に愛された花です。現代俳句に私の好きな句があります。

朝顔の紺の彼方の月日かな
石田波郷

朝露に濡れる朝顔の鮮やかな紺の花がみずみずしく咲きつらなっている。その紺の彼方に果てしなく広がる未来の月日をみてくる、鮮やかな花びらが印象的な句です。

「朝顔の花一時」という諺があります。朝咲いて、昼にはしぼんでしまふ朝顔なので、物事の盛りがきわめて短く、はかないことをさします。

夏の風物詩といえば、朝顔市、浴衣姿、夏休み、ラジオ体操、そして、朝顔の鉢の観察絵日記と：幼いころのことが、次々によみがえってきます。

(井)

INFORMATION

lifsea
株式会社リフシア

(株)リフシア 10周年記念事業

開催日 平成26年8月30日(土)
会場 茅ヶ崎市コミュニティホール
(茅ヶ崎市分庁舎6階) 集会室

受付開始 12:40~
(第1部) 13:00~15:00

〇記念講演
「被災地の実践から、
真の地域助け合いを考える」

宮城県仙台市「ひなたぼっこ」石巻市「あがらいん」が
取り組む地域食堂、ケア付き住宅の実践と災害時の課題

講師
特定非営利活動法人全国コミュニティライフサポートセンター 仙台・国見地域グループ石巻地域グループ 兼 調査研究・情報グループ

グループ長 田所 英賢(たどころ ひでよし)氏

(第2部) 15:10~16:30

事業所の紹介と親睦会

*席を用意するため、ご参加いただける方は、事前にご連絡ください。(入場無料)

お問い合わせ先 ☎0467-55-5102
(株)リフシア 事業企画部まで

編集後記

6月、編(み)は「あがらいん」の他に宮崎県の地域食堂へも行きました。今号で紹介したタンポポが使用している(株)宮源のゲル化剤で真空調理している「まごころ食託宮崎株式会社」は、嚥下・咀嚼機能が低下している人向けの食品を製造しています。地域の高齢者の食の拠点を目指して「まごころ食堂」も営業され、大変勉強になりました。



まごころ食堂は和モダンで落ち着いた雰囲気
フットアクションショップ
ニアワード2013商品
部門入賞の実績



ぶち夏10周年記念号は、2005年9月創刊号から数えて36号目となりました。HPにアップしているバックナンバーからリフシアの変遷がご覧いただけます。長年、挿絵やコラムに協力いただいている皆様、寄稿文や投稿を送ってくださった皆様にこの場を借りて心より感謝申し上げます。

らいい通信「ぶちらいふ」10周年記念号
Vol.36 2014年7月30日(季刊発行)
編集/ぶちらいふ編集室

〒253-0071 神奈川県茅ヶ崎市萩園 2822-1
TEL0467-55-5102 FAX0467-55-5103
発行/株式会社リフシア



求められる、新たなコミュニティ

震災から4年目、被災地では、孤独死やアルコール依存の問題が深刻になっていす。しかし一方で、仮設住宅から転居する住民の移動と高齢化に対して、支え合う地域作りに地道に取り組んでいる人たちもいます。

「センター」（以下CLCと略す）が運営する「あがらいん」に行きました。



6月19日、らいふ神明の熊本所長とぶちらいふ編集室（み）は、仙台駅から高速バスで1時間30分かけ石巻の、NPO法人「全国コミュニティライフサポート

センター」（以下CLCと略す）が運営する「あがらいん」に行きました。「あがらいん」は、被災地最大規模1900戸が生活する開城・南境仮設団地の中にあります。現地では、震災により家族や友人、住み慣れた家、仕事の喪失といった大きな環境変化や、長期的な仮設住宅生活が続き、心身のバランスを崩す人が多いと聞きます。石巻市はこのような人々が一次的な支援を受け、次の生活場所へ移行できるよう、居住や通い利用できる福祉避難所「あがらいん」を作り、CLCに運営を委託しました。



交流スペースで八百屋を担当する人もいます ↓あがらいんの住居スペース



↑プレハブ作りの「あがらいん」の入り口

「あがらいん」は、厚生労働省の“地域支え合い体制作り”予算で運営されており石巻・南境団地（写真右）の中にある福祉仮設住宅



移動販売は火曜と金曜、仮設住宅で調理しにくい惣菜を販売している



2棟をつなぐ階段に、車いすの人が雨の日も行き来できるよう渡り廊下とトタン屋根が作られた。発案、制作は男性利用者

また、子育てサロンや学習室、駄菓子屋さんなど、世代を超えた地域の交流・情報交換の場にもなっています。

「ある認知症の方を仮設住宅の住民が気にかけて、声をかけ合うようになったことで地域の絆が深まり、自分たちにもこの人がかけがえのない存在だったと気付いた」という磯野さん（あがらいん副チーム長）のお話は、皆が誰かのために繋がる人間本来のあり方を示す印象的な内容でした。この日ひとりの男性が退所するので、荷物を準備し、皆さん



に挨拶されていました。これからも磯野さんたちは静かに見守り、この人の地域での生活が続くのだと思います。国が提唱する「地域包括ケアシステム」が本当の意味で先取りされているようでした。「あがらいん」で昼食をいただいた後、CLCの理事 高木崇衣氏とグループ長 田所英賢氏に女川町を案内していただきました。



CLC理事 高木崇衣氏(写真右端)副チーム長 磯野敏氏(写真左端)と撮影

毎週木曜日に営業する地域食堂はワンコイン(500円)でゆっくり食事ができる憩いの場

女川町のあの日と現在

女川町は、20メートルを超える大津波が山あいの集落まで襲い、最も甚大な被害を受けた町です。

海抜16メートルに建つ女川町立病院の駐車場に立ち、さら地になった中心街を望むと、町がすっぽり無くなつてしまつたようです。当時、1階まで津波が押し寄せ、病院の職員は懸命に患者さんや町民を2階から上に避難させ、650人以上を収容したそうです。

土地が狭いという事情があり、以前の中心街に盛り土工事をして復興させるそうです。その為、現在も多くの住民が仮設住宅で暮らしています。野球場内の仮設住宅に隣接して、今年3月、災害公営住宅(200戸)が完成しました。その約5割が高齢者世帯、7割が高齢者と暮らす世帯と言う事で、住みかえを繰り返さなければならない住民への影響が心配されます。



3・11震災当時の女川町中心地

↓女川町立病院から見下ろした現在の風景(盛り土工事がすすめられている)



以前から地域との関わりが深い社会福祉協議会のスタッフが常駐し、この地区の戸別訪問や健康相談、イベント開催など、コミュニティ作りに大きな役割を果たしていました。訪問した日は地域医療センターのスタッフも来て、女川リハビリ出張講座を行っていました。



貞山堀は仙台藩伊達正宗が城下町を建設する物資を運ぶため、木曳堀開削を命じたのが始まりで、仙台湾岸に沿って総延長 49 kmにおよぶ日本最長の運河群です。東日本大震災では津波にのみ込まれた無数の車や瓦礫で水路は埋まりました。

孤立を生まない地域づくり

昨年5月に名取市閑上地区、今回は石巻市と女川町を訪れ、被災地で普通の生活を取り戻すのに一体どのぐらいの歳月がかかるのか、気の遠くなる状況を実感しました。私たちは、仮設住宅やそこを離れて移り住んだ人たち、県外に避難している人たちを孤立させてはいけません。それは、私たちそれぞれが住む地域社会の中にも言える事です。強く思います。

最後に移動の車中で高木理事が、避難所で起こった支援ボランティアの課題、被災地の子供の心の問題などを教えてくれました。紙面の都合で書けませんが、どれも知っておいた方がよいことばかりです。

案内していただいた田所英賢グループ長の講演を予定しています。田所氏は、CLCスタッフとして震災直後から石巻現地の支援を担当されました。当時を振り返り、教訓化しなければならぬ課題や、地域の支え合い拠点「国見・千代田のより処ひなたぼっこ」「石巻・開成のより処あがらいん」の実践についてお話を聞くことができます。沢山の皆様のご参加をお待ちしています。



野球場内の仮設住宅(写真左)のすぐ近くに、災害公営住宅(写真右)が完成したけれど、住民の間では複雑な気持ちが生きている。早く落ち着いた生活を取り戻したいと誰もが願っている



らいふ神明 東日本大震災復興支援バザー実施報告 らいふ神明 所長 熊本 航

ニティライフサポートセンター（CLC）へ直接お届けして参りました。

このバザーは、東日本大震災復興支援という大きな目的と、らいふ神明お客様の「自主性を尊重」を念頭に、準備段階から皆さんが販売用の焼売作り、モールハンガー・ティッシュカバー・シュシュ（髪飾り）・貝殻ストラップ等の製作、値付け作業、当日の販売係等を担当していただきました。もちろん、バザーで買い物を楽しみ、地域の皆様と交流もできました。

地域の皆様、ご家族の皆様、ご協力ありがとうございました。心より御礼申し上げます。



神明のお客様の手作り品



地域の催しとして定着する第7回復興支援バザー

バザー品協力者	38名
ボランティア	25名
バザー収益	239,877円
CLCへの寄付金	250,000円



高木理事に寄付金を手渡す熊本所長

平成26年5月10日(土)らいふ神明 東日本大震災復興支援バザーを無事終了できたことをご報告致します。当日は天候にも恵まれ、多くの皆様のご支援とご協力により開催できたことを、改めて実感した1日でした。もちろん、リフシアの各事業所もボランティアに来てくれました。バザーの売上は 6月19日、宮城県で復興支援に携わっている NPO 法人「全国コミュ



この春、茅ヶ崎市萩園にセントラルキッチンができました リフシアネット タンポポを紹介します



タンポポ（花言葉は真心の愛）のコンセプト

在宅介護は高齢化が進み、重度対応の人が増えています。リフシアでもしっかり食べることができない、飲み込みがよくないといった方へのアセスメント、口腔ケアや食事の姿勢、食形態といった基本を押さえることが益々大切になってきました。5月から萩園にオープンしたばかりのタンポポ（セントラルキッチン）は、真空調理で普通食・介護食・嚥下食の3つの形態を介護事業所に届けています。将来の「食をとおした地域のネットワーク作り」を目指し、会社を設立しました。現在スタッフは、管理栄養士の飯野登志子先生を

顧問に迎え、5名の栄養士と茅ヶ崎養護学校の新卒者を含む8名のサブスタッフが働いています。家族が病院を退院する時、大抵の介護者は不安を募らせています。毎日食べるものだからこそ、介護食作りが介護者の大きなストレスにならないお手伝いができればと願っています。



介護事業所に出かけて嚥下食の勉強も行っています。



在宅での介護食について写真や図でわかりやすくまとめた「おうちで作るかいご食」の冊子は、タンポポでも取り扱っています。



管理栄養士 飯野登志子先生

咀嚼や飲み込みが悪くなったら、味や色合いが悪くても栄養さえ取れれば良いと考えるのは間違いです。タンポポでは、美味しく食べられる介護食・嚥下食作りを、私自身が開発に関わるミキサーゲルやトロミファイバーを使って製造、リフシアの介護施設で毎日提供しています。在宅介護で食事作りが負担にならないようなアイデアも沢山ありますので、皆さんのお役に立てると思います。

■プロフィール 2013年まで聖隷福祉事業団に在籍。聖隷三方原病院摂食嚥下チームで嚥下食の研究に従事。聖隷浜松病院、老人保健施設ペテルホーム、系列施設特別養護老人ホーム「さくまの里」を経て、糖尿病療養指導士、病態栄養専門師としても活動。



タンポポのセントラルキッチン内



真空包装でお届けします





小規模多機能型居宅介護（単独）は、
私たちの第二の家！



松林 柳島 松が丘

暮らしている地域・自宅・施設が
繋がっている穏やかな生活

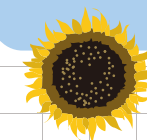


グループホームと小規模多機能型居宅介護が
同じ建物にある大所帯

善行 香川 神明



リフシア
歳時記



デイサービスでこれからも
新しい発見を！

萩園 松が丘

お菓子作り・水墨画教室・
畑仕事、健康体操、
沢山のプログラムにチャレンジ



今年オープンしました！
サービス付き高齢者向け住宅

見学・ご相談
随時受け付けて
います！



浜之郷

ケアマネジャーと
ホームヘルパーの
事業所があるので
老後の暮らしも安心

